

平成27年9月1日  
在ポルトガル日本国大使館

## 東博史大使からのメッセージ

本格的な夏の暑さも和らぎ朝夕はめっきり涼しくなってきましたが、皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のことと存じます。

今月は、姉妹都市交流等の一環として8月中に行われた3件の「青少年交流」及びHIT社(カゴメ及び三井物産が出資する持株会社)訪問について御紹介するとともに、水景クリエイターの天野尚氏御逝去についてお知らせ致したく存じます。

### ●天野尚(あまの たかし)氏御逝去

現在、リスボン海洋水族館に展示されている「水中の森」40メートル水槽を制作された水景クリエイターの天野尚氏が8月4日逝去されました。

同水槽は、淡水による世界でも類を見ない水槽で、世界中の水族館関係者の注目を集めていることを本年5月号の大使メッセージで御紹介いたしました。

8月26日、私は、福岡EU協会第6回EUミッション訪問団とともに、同展示のを再度視察いたしました。

4月21日の同展示の開幕セレモニーの際に天野尚氏は、「数か月後には、水草が育ち、更に「自然の水景」に近づき美しくなります」と仰っていたのですが、その言葉どおり「水景」は、水草の緑が益々深くなり、巧に配置された流木や石組が「自然の水景」に溶け込み、見事に「淡水の自然」が息づいており、私はこの水槽は「生きている」、「成長している」と感じました。

天野氏は、水草レイアウト作品集「ガラスの中の大自然」の中で、「長期維持は、ネイチャーアクアリウムのコンセプトのひとつであり、水草がつくるままに、自然のままに水景ができていくというスタイルは、ネイチャーアクアリウムの根本的な考え方にも通じている。水景を美しい状態で維持するということは、水槽内の生態系のバランスがとれていることに等しい。こうした環境の中では藻類も発生しにくいし、魚の病気も出にくい。長期経過した水槽の中では、自然繁殖によって新しい生命が誕生し、魚の世代交代が行われている。バランスのとれた環境の中では、生態系は崩れることなく長期にわたって維持されることを、ガラスの中の自然が教えてくれているのである。」と述べておられますが、リスボン海洋水族館の「水中の森」は、「生態系のバランス」を完璧なまでに実現した「ネイチャーアクアリウム」であることを改めて実感いたしました。

今回、我々を案内して下さったジョアン・ファルカート館長は、その説明の中で、「天野氏による『水中の森』40メートル水槽は、世界でも類例を見ない最高レベルの展示であり、4月の開

幕以来、世界的な注目を浴び、高い評価と賞賛を受けており、歴史的にも、リスボン海洋水族館史に残る展示となりました。この「水中の森」を見るために世界中から多くの方が来訪しており、この展示のお蔭で今年の来館者数は昨年比し10パーセント増を見込んでおり、リスボン海洋水族館は名実ともに世界ナンバーワンの水族館になると思っています」と仰っていました。また、同館長は、「天野氏が逝去されたことは大変残念であり、御冥福をお祈りしています。自分としては、天野氏の遺志を引き継ぎ、この展示の本質部分のひとつである生態系のバランスの重要性を来館者はじめ世界の人々に伝えて行きたいと考えています」と述べておられました。

本年5月、開幕式典の後帰国された天野氏から私宛に頂戴したお手紙には、「(大使からお伺いしたとおり)現在の日本とポルトガルの政治的な関係がかつてないほど親密になっていること、今後の観光やビジネス、文化面における人的な交流の重要となっている局面で、私の創ったネイチャーアクアリウムが、日本とポルトガルの交流の懸け橋として微力ながらお役に立てますことをたいへん誇りに思います。これからもリスボン海洋水族館に展示された水景を美しい状態でより長く維持し、世界中のより多くの方々に見て頂けるように、私も引き続き日本から現地駐在のスタッフに指示をして参ります」との心のこもったお言葉がしたためられていました。

4月21日、同展示の開幕セレモニーの際、シルヴァ・環境・国土・エネルギー大臣は、その開会挨拶の中で、「今回の展示は、3月のコエーリョ首相訪日以降最初の日・ポルトガル間の重要なプロジェクトであり、このプロジェクトを通じて、「生物多様性」「地球環境保全」の重要性を世界に訴えると共に、この「自然の美しさ」を示すことにより、「環境保全と芸術」の連携、「環境保全と経済活動」の連携についても思いを馳せてもらい、リスボン海洋水族館に多くの来訪者が来られることを期待している」と述べられたことを5月号の大使メッセージでも紹介いたしました。同展示は、シルヴァ大臣の期待に見事に応えるものになったと確信しています。

私も天野氏の遺志を引き継いで、日本とポルトガルの交流強化、環境問題に対する取り組みの強化に努めるとともに、「淡水による40メートル水槽」という、世界中で、日本人の天野氏にかなしえない偉業を引き続き顕彰して参りたく存じます。

最後になりましたが、改めて、天野尚様の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

#### ●東日本大震災被災地の中学生のスポルディング夏季アカデミー参加

東日本大震災被災地の中学生2名が、8月3日-8日及び8月10日-15日、サッカーの強豪チーム・スポルディングの夏季アカデミーに参加しました。

これは、ポルトガル在住の山菅志保子女史がNPO法人「相馬リリーフ311」と協力して、東日本大震災被災地復興の一環としての国際交流であり、日本からの中学生の来訪は今回が2回目となります。

私もその2人と会って話す機会があったのですが、二人とも「2週間という短期間ではありましたが、ポルトガルを初めとする各国のサッカー少年と楽しく交流することができました」と今

回の経験について話してくれました。二人の今後の人生にとっても意義深いものになったと思います。このプロジェクトは、震災復興の意義に加えて、我が国の国際化、青少年教育にとっても極めて有益であると感じました。

#### ●シントラ市と大村市の姉妹都市交流として、大村市の2名の中学生がホームステイ

8月、シントラ市と大村市の姉妹都市交流の一環として、大村市の2名の中学生がシントラ市でホームステイを実施しました。私も、大村市及びシントラ市の国際交流担当者並びに大村市の2名の中学生、ホームステイ先の中学生にお会いしました。

両市間では長年におわり、青少年のホームステイを継続しているとの事で、今回ホームステイした大村市の2名の中学生も「大変楽しく有益な交流で、ホームステイは、今後の人生の糧になりました」と話していました。

私からは、最近の日本とポルトガル間の首相の相互訪問等を初めとする両国間の関係緊密化の動向を説明するとともに、1580年代にポルトガルに来訪した「天正遣欧使節団」の4名の少年がその高い教養をその立居振舞によって欧州の人々に「極東の『日本』という国には素晴らしい文化が息づいている」との印象を与えたお話しをし、このホームステイを契機として両国間の懸け橋となって頂くようお願いいたしました。

また、両市の国際交流担当者に対し、この青少年のホームステイの交流の継続をお願いするとともに、今後は、両市間で、貿易・投資の促進、観光交流の促進等経済面での関係強化を検討頂きたいと述べたところ、両市双方の国際交流担当者から「御提案は、両市の市長の意図に合致しており、是非ともその方向で具体策について検討していきたい」との反応がありました。

少し時間はかかっても、是非ともこの方向で進んで頂くことを期待しております。

#### ●アヴェイロ市と大分市の姉妹都市交流の一環として、大分市のサッカー少年16名が来訪

アヴェイロ市と大分市の姉妹都市交流の一環として、大分市のサッカー少年16名が来訪し、アヴェイロ市で開催されたサッカー大会に参加し、優勝しました。

私も、両市の国際担当職員、サッカーチームの監督他関係者とお会いいたしました。アヴェイロ市と大分市は、毎年のように姉妹都市交流行事を実施しており、本年は、サッカー交流ということで、両市の担当者、サッカー少年も良い交流ができたとして、満足されていました。

私からは、最近の日本とポルトガル間の関係緊密化の動向を説明するとともに、「天正遣欧使節団」の4名の少年の活躍についてお話しをし、今後は、両市間で、貿易・投資の促進、観光交流の促進等経済面での関係強化を検討頂きたい旨お願いいたしました。

#### ●HIT 社訪問

8月5日、私は、HIT社を訪問し、トマト加工工場を視察するとともに、トマト農場ではトマトの収穫の様を見学しました。

今回の訪問により、ポルトガルのトマトの素晴らしさ、ポルトガルが、気候、日照時間、肥沃な土壌、豊富な良質の地下水等自然条件を備えており、欧州、地中海地域で最も安定したトマト産地であることを知りました。

加えて、HIT社は、農業研究センターで、ポルトガルに適した独自品種のトマトの育種、栽培を行うとともに、トマト加工工場で、一次加工(トマト加工)、二次加工(ケチャップ・ピザソース)を同時に実施し、世界最高水準の品質を確保しながら製品の安定供給を行っていることを大変心強く思いました。

これまでHIT社の製品は、ほぼ100パーセント輸出されており、主要輸出先は、日本はじめアジア諸国、英国、オランダはじめ欧州諸国、クウェート、サウジアラビア等中東諸国、豪州等オセアニア諸国だそうです。HIT社の売り上げは好調ということで、特に、ここ4年間、ポルトガルが「トロイカ支援」下で緊縮財政を実施してきた中で、HIT社の輸出は、ポルトガル経済の回復に対しても一定の貢献を行ったものと考えられます。

私としましては、日本の方々にポルトガルの良さのひとつとして、ポルトガルのトマトの素晴らしさを伝えていきたいと考えています。また、ポルトガルの方々に対しても、日本企業であるHIT社が、ポルトガル産のトマトで最高品質のトマト加工品を生産し、輸出することにより、ポルトガル経済の回復に貢献していることを知らせていきたいと考えています。

ちなみに、ポルトガル政府は、HIT社の経済活動を高く評価しています。このことは、昨年5月の安倍総理のポルトガル訪問のフォローアップとして、昨年6月に訪日したアスンサオン・クリスタス農業・海洋大臣が、那須の「カゴメ農業研究センター」を訪問したことや、昨年9月に西秀訓カゴメ会長がリスボンに来られた機会に、パウロ・ポルタス副首相を表敬した際、同副首相から「カゴメ社のポルトガルへの投資を高く評価しています」との発言にも表れていることを申し添えます。

9月に入り、夏期休暇も明けますが、皆様におかれましては、御自愛の上御活躍されますようお祈り申し上げます。